

目指す学校像	児童に、保護者に、地域に信頼される中尾小学校
重点目標	1 学校・家庭・地域・行政が協力協働した、児童の自律のための学校経営 2 社会に開かれた学校づくり コミュニティ・スクールとSSNとの一体的な推進 3 読解力向上を核とした、確かな学力の向上と主体的な学習態度の定着 4 キャリア段階に応じた授業力の向上、働き方改革を視点にした業務改善と教職員の健康・安全の確保

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価			
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	○全国学力・学習調査では、「学校に行くのが楽しい」との肯定的回答は94%で、国や市の平均を大きく上回っている。「自分にはよいところがある」には、10ポイント以上、肯定的回答が上回り、否定的回答は1.5%のみである。 ○非遵行や暴力的行為をする児童は皆無だが、5月末現在、15日以上欠席の不登校児童及び不登校傾向児童は11名在籍している。(昨年度15名) ○いじめは、昨年度14件で、13件解消と1件の見守りである。今年度の認知件数は、5月末で3件である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援や教育相談に向けた校内体制の充実 ・素早く組織的ないじめへの対応	①部会が中心となり、児童向けアンケートや面談等に記録を蓄積し、児童の状況を継続的に把握できるようにする。 ②コーディネーターを中心に、定期的な教育相談日を設け、SC、SSWを活用した保護者・児童面談を行う。必要に応じて、随時、ケース会議を行う。 ③いじめについては、中尾小学校いじめ基本方針を学年ごとに熟読し、全教職員が「いじめは絶対に許されない」という共通認識をもって、迅速で丁寧な対応、組織的な対応を行う。	①自己評価に係るアンケートで、関連項目の90%以上が肯定的回答になったか。 ②毎週水曜日の教育相談日が活用され、SCやSSWと連携やフィードバックする場をもつことができたか。迅速、組織的対応が行えたか。 ③学期1回のいじめ対策委員会や場に応じたケース会議の開催、いじめ基本方針の熟読を基に、早期発見、早期対応に努めることができたか。	①自己評価アンケートで85%以上の肯定的評価を得ることができたか。			
2	○昨年度、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す児童像と地域像について熟議を行い、「地域と共にある中尾の子ども・あいさつと励ましにあふれる中尾の地域」とした。地域全体で共有していくことを確認した。 ○本年度から学校運営協議会を開設し、昨年度確認した、「目指す児童・地域の姿」を、さらに地域や家庭に広げ共有できるようにする。また、児童に育てたい力について、さらに熟議を深め、継続的な実践について一歩を踏み出す。	・目指す児童像の姿を地域・家庭全体で共有するための場づくり ・教育活動の公開、学校評価の活用	①内容について、教職員へは校内研修で、家庭・地域へは懇談会や学校だより、ホームページで情報発信を行い、目標とビジョンの共有を行う。 ②学校自己評価に係るアンケートを行い、それに基づく対話の場を、学校運営協議会、PTA本部役員会、運営委員会等をもち、吟味する。 ③SSN会議で「目指す児童像、地域の姿」について、具体的方策について話し合う。	①校内研修、懇談会、学校だよりやホームページなどで、各1回以上情報の発信することができたか。 ②学校自己評価に係る教員や保護者のアンケートにおいて、肯定的回答が90%を上回ったか。 ③「目指す児童像、地域の姿」をイメージした具体物やキーワード、取組を1つ以上作成することができたか。				
3	○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国、市平均と比べ、国語ではほぼ平均、算数では、平均を上回っている。2年前に比べ、特に算数において大きく伸びてきている。 ○関心・意欲・態度に関するアンケートにおいて、国語では約60%、算数では約65%の児童が肯定的回答を示している。反対に、算数で約20%が否定的である。 ○国語では「書く」「読む」、算数では「変化と関係」「データの活用」といった思考や判断を伴う内容が、全国平均より5ポイント上回っている。また、知識・理解的な内容は基より、記述や表現に関する内容が良好である。 ○課題としては、国語・算数において、無回答率が全国平均より高く、算数においては増加してきている。上層と下層との大きな開きがみられ、苦手意識をもつ児童をどのように引き上げていくかが課題である。	・全国学力学習状況調査 ・さいたま市学習状況調査 ・ICTの活用、児童主体の授業改善	①全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、研修推進委員会を中心に、より効果的な手立てを設定し、読解力向上を図る。 ②読解力向上のための研究の視点1,2,3を明確にし、委員会や指導主事と連携し、授業研究会を各学年で行う。 ③学習状況調査において、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末シートに上げることによって、自らの学習状況を把握できるようにする。	①調査結果の分析結果等を踏まえ、授業改善の視点や手立てを設定することができたか。また、読解力に関する問題について、正答率が85%以上とすることができたか。 ②研究の視点を各ブロック学年で授業に盛り込むことができたか。授業では、80%以上の児童が自らの考えをもち、記述することができたか。 ③児童が自らの採点を基に、学習状況を掴み目標を立て、自らの課題に向けて行動したか。	①指導方法の工夫改善について、80%以上の教師が、肯定的回答をすることができたか。 ②学校作成のアンケートにおいて、8割以上の教師が、肯定的回答をすることができたか。			
4	○個別最適化を目指したICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり、研修を行い、推進を図ってきた。 ○高学年の一部教科担任制実施により、担当教科について、学年を全体で見合い、より深い教材研究をすることができている。 ○キャリア段階に応じた、授業力・指導力の向上が求められる。30代を多く占める世代をミドルリーダー、学年主任として育成したい。 ○働き方を意識した、業務改善と教職員の健康・安全を確保する。	・ICT研修 ・一人ひとりがやりがいをもって力を発揮できる学校 ・働き方や身を守るサービスの研修	①年間を通して、学期に1回以上のICTの活用方法についての研修やICTだよりを発行し、全員が活用できるようにする。 ②一人ひとりの教員が、年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、授業を公開する。 ③月1回の業務改善委員会、計画年休、学年で定める定時退勤日を確実に行う。また、具体的な学校行事のスリム化を行う。(やり方、時間短縮等)	①全ての教員が個別最適な学習形態を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②特に初任者・若手教員やミドルリーダーが「よい授業」のアンケートにおいて、0.2ポイント以上、向上したか。 ③定時退勤日や計画年休を確実に実施したか。2つ以上の学校行事のスリム化を行うことができたか。				